

『自らの生き方を創る子どもの育成』～1人ひとりの個性を生かす教育の推進～



No.32 2025. 10. 29 校長 川上 誠治

いつもありがとうございます。

感謝しています。

1学期にPTAさんと学校で運動会の総合得点について次のような話し合いをしました。

どうして佐野台小学校の運動会は総合得点がなくなったのですか？ 総合得点がある方が盛り上がるのに！！

昔、運動会で応援団の勝敗を決めていたことがあったのです。しかし、子どもたちがみんながんばっているのに勝敗にフォーカスする(こだわる!?)のはおかしいとなってやめたのです。そして運動会でもみんなががんばっているのに総合得点で勝敗にフォーカスする必要があるのかを学校で話し合い、なくすことにしたのです。

子どもたちが社会に出たときには勝敗があります。だから小学校の時から勝敗も大切だと考えています。勝って学ぶこと、負けて学ぶことがあると思うのですが…。

確かに勝って学ぶこと、負けて学ぶことはあると思います。だから学年ごと、ブロックごとの勝敗はつけるようにしています。

学年ごと、ブロックごとの勝敗をつけるなら総合得点をつけるのも同じじゃないですか？

勝敗をつけることではなく、運動会の目的である集団活動の喜び、連帯感、共働より、勝敗にフォーカスするので総合得点をなくしたのです。たとえば『〇〇さんのせいで負けた』『◆◆さんがいるから負ける』など勝敗にフォーカスする言動があったから総合得点をなくすことにしたのです。学年、ブロックでは〇〇さん、◆◆さんのことをわかっているのですが、そういう言動は起こりにくいのですが、総合得点にすると〇〇さん、◆◆さんのことをわからない子どもたちがそういう言動をしたということがあったそうです。実際に総合得点をなくしてからは勝敗にフォーカスする言動、ギスギス感、プレッシャーがなくなりました。

勝敗にフォーカスする子どもはいると思います。ただ『〇〇さんのせいで負けた』『◆◆さんがいるから負ける』はダメですね。学校だけではなくPTA・保護者が一緒になって指導していきましょう。もしみんなのことをよく知らないというのであればわくわく活動などでみんなが仲良くなれるような取り組みをすることが大切じゃないですか？

『学校だけではなくPTA・保護者としてもそういう言動をしないように指導していきしょう』が本当に心強いです。ありがとうございます。確かにわくわく活動などでみんなが仲良くなれるような取り組みをすることが大切ですよね。



運動会の目的に集団活動の喜び、連帯感、共働というのであれば自分たちの学年、ブロックが終われば応援しなくなる可能性もありますよね。しかし、総合得点になれば最後の最後まで自分たちの色を応援しますよね。



確かにそうですね…。



総合得点がなくなったことをぼくたちは知らなかったのです。なぜ総合得点をなくしたのかがわからなかったのです。



そうなんですね。学校からプリントがあったとはきいていますが…。これからはPTA実行委員会、学校だより、ホームページなどで情報共有していきますね！！



子どもたちも総合得点の方が最後まで応援できるのに！！と言っているのです。子どもたちの声をきいてほしいのです。子どもたちの声を大切にした学校にしてほしいのです。



2024年12月25日に中央教育審議会の『初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について』の諮問(次の学習指導要領のもとになります!!)の中で次のように書いています。

これから我が国を担う子供たちは、激しい変化が止まることのない時代を生きることになります。(中略)異なる価値観を持つ多様な他者と、当事者意識を持って対話を行い、問題を発見・解決できる、「持続可能な社会の創り手」を育てる必要性がこれまで以上に高まっていると考えられます。

文部科学省

『社会の創り手』を育てるためには子どもたちが『学校を創る』経験が必要だと考えています。『学校を創る』とは子どもたちの声を大切にして学校を変えていくということです。ただすべてを子どもの言葉通りにはできません。

その方法は異なる価値観を持つ多様な他者と、当事者意識を持って対話を行う必要があります！！子どもたちの声は大切にしますが、教職員としての経験や思い、願いなどをしっかりと子どもたちに伝えることも大切だと考えています。そして問題を発見・解決していくことが大切です！！

PTAのみなさんの『子どもたちの声をきいてほしい』『子どもたちの声を大切にした学校にしてほしい』はこれからの子どもたちに、学校で大切にすべきことなのです！！